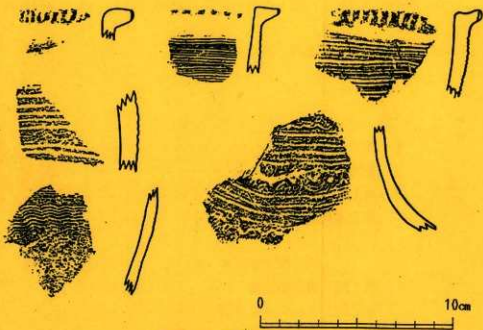


鵜遺跡の調査1 - 第3次調査 -

町道小栗田線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告



鵜遺跡第3次調査出土

1990年6月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町鶴字小栗田に所在する^{いかりが}鵜遺跡第3次調査の概要報告書である。
2. 調査は、町道小栗田線道路改良工事に先立ち、昭和62年 3月 2日から3月 7日に実施した。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・田村三千夫が担当した。
4. 本調査・整理作業にあたっては、以下の協力を得た。
小野斉・佐々木正名・玉田喜作・藤井昭子・藤井信夫・藤井実
森崎宏子・柳生俊一・丸尾利久・藤田敏彦・岩村千穂・伊藤慶子
室谷雅子
5. 遺物の実測は、三村・田村・伊藤・室谷が行い、トレースは田村が行った。
6. 本書の執筆・編集は、田村が担当した。

も く じ

1 調査に至る経過	1
2 調査の概要	1
3 まとめ	2
出土遺物観察表	3

図 版・写 真 も く じ

第1図 遺跡の位置	1
第2図 トレンチ配置図	1
第3図 主要遺構配置図	2
第4図 溝部出土遺物(1)	9
第5図 溝部出土遺物(2)	10
第6図 土塋(土探跡)出土遺物	10
第7図 遺構面出土遺物	11
写真1 トレンチ1(東から)	12
写真2 トレンチ2・3(北から)	

鵜 遺 跡 の 調 査 — 第3次調査 —

- ①遺跡所在地 兵庫県播磨郡太子町鵜
字小栗田1304・1306番地
- ②調査主体者 太子町教育委員会
- ③調査担当者 社会教育課 三村修次
田村三千夫
- ④調査期間 昭和62年 3月 2日～ 3月 7日
- ⑤調査面積 146㎡



第2図 遺跡の位置
(1:25000「冊」・「語」)

1. 調査に至る経過

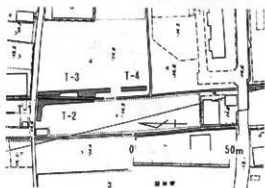
鵜遺跡は太子町中心部、鵜地区の微高地の東端に位置し、標高14～15mに立地する。これまでに2次の調査が行われて溝状遺構などが確認され、古墳時代前期の遺跡と考えられている。⁽¹⁾

今回、太子町道小栗田線改良工事に先立ち、第3次調査を実施した。調査地は太子町立図書館の北、南流する水路に沿った地域である。

2. 調査の概要

水路をはさんで4本のトレンチを設定し、146㎡の調査を実施した結果、耕作土直下から、溝状遺構2、土塋15が確認された。溝Ⅰは幅60cm、深さ最大60cm、溝Ⅱは西を溝Ⅰにきられ、深さ35cmで、ともにT-1・2・3を貫いて北々西から南々東へのびる。これらの溝から、多量の弥生土器が出土した。そのほ。とんどは後期のものだが、中期前葉のものも含まれる。水田部は地下げによる削平をうけており、溝からの土器の多くは削平されていない現在の畦畔部分より出土し、いずれの溝に属するものか確認できなかった。土塋は、いずれも近世以降の瓦師の粘土採り跡と考えられ、うち、4個からは多量の廃棄された瓦が出土した。

遺物としては、弥生土器・瓦のほかに土師器・須恵器なども多く出土し、そのなかには、中国同安窯のものと考えられる青磁2点(うち、1点は小片のため図化できなかった)も含まれる。



第2図 トレンチ配置図

3. まとめ

今回の調査では、弥生後期の溝状遺構が確認され、弥生中期の土器も出土した。このことから、鵜遺跡は弥生時代後期、あるいはそれ以前にまで遡ると考えられる。しかし、今回の調査でも住居跡など直接集落につながる遺構は確認されなかった。

(1) 第1次調査は、昭和43年2月に、東芝若芝寮増築工事に伴って東洋大学附属姫路高等学校考古学教室の手で行われ、古墳時代前期のU字溝、平安時代のU字溝・土壌が検出されている。

第2次調査は、昭和57年5～6月に、太子町立図書館建設工事に伴って町教育委員会の手で行われ、古墳時代前期のU字溝が確認されている。

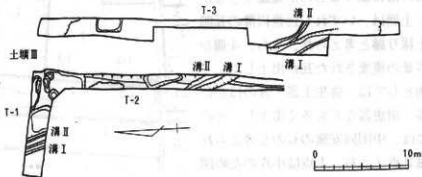
鵜遺跡の調査については、以下を参照。

上田哲也「掛保郡太子町鵜遺跡」（東洋大学附属姫路高等学校考古学教室『播磨の土器の研究』）1973。

三村修次「鵜遺跡」（兵庫県教育委員会『兵庫埋蔵文化財調査年報 昭和57年度』）1985. 3.30。

三村修次・田村三千夫「鵜遺跡」（太子町教育委員会『播磨国鵜荘現況調査報告』Ⅱ）1989. 3.31。

田村三千夫「鵜遺跡（第4・5次調査）」（太子町教育委員会『播磨国鵜荘現況調査報告』Ⅲ）1990. 3.31。



第3図 主要遺構配置図

出土遺物観察表

弥生器出土遺物

No.	器種	法量	胎土	色調	備考
1	弥生中期 甕 口縁部		微砂粒子を含む 1-3.4mmの砂粒を含む	外 淡茶褐色 内 赤茶色	
2	弥生中期 甕 口縁部		微砂粒子を含む	外 暗コグテ茶色 内 茶褐色	
3	弥生中期 甕 胴部		微砂粒子を含む 1-3.4mmの砂粒を含む	外 白茶褐色 内 白灰色	摩耗が著しい
4	弥生中期 甕 胴部		微砂粒子を含む	外 コグテ茶色 内 赤赤茶色	外面にスズ状の付着物あり
5	弥生中期 甕 胴部		微砂粒子を少し含む 1-2mmの砂粒を含む	外 淡赤茶色 内 灰白色	
6	弥生中期 壺 胴部		微砂粒子を含む 1-3.4mmの砂粒を含む 2-4mm程度の砂粒を含む	外 淡コグテ茶色 内 肌色	
7	弥生中期 高杯胴部	復元径 20, 3cm	細砂粒を含む	外 赤茶色	摩耗が著しい
8	弥生中期 底部	復元径 15, 9cm	1mm程度の砂粒もわずかに含む 細砂粒を多く含む	内 赤茶色 外 淡肌色	
9	弥生後期 壺 口縁部		1-2mmの砂粒を含む	内 赤茶色 外 赤茶色	
10	弥生後期 壺 口縁部	復元径 23, 0cm	微砂粒子を含む 1-3mmの砂粒を多く含む	外 黄灰褐色 内 淡赤褐色	
11	弥生後期 壺 口縁部	復元径 20, 5cm	微砂粒子を含む	外 茶白色 内 茶白色	
12	弥生後期 壺 口縁部	復元径 20, 5cm	1-2mmの砂粒を含む 微砂粒子を含む	外 淡赤褐色 内 淡赤褐色	
13	弥生後期 壺 口縁部	復元径 15, 9cm	1-2mmの砂粒を含む 微砂粒子を含む	外 茶褐色 内 赤褐色	
14	弥生後期 壺 口縁部	復元径 17, 6cm	微砂粒子を含む 1-2mmの砂粒を含む	外 淡赤茶色 内 淡赤茶色	
15	弥生後期 高杯胴部	径 9, 3cm	微砂粒子を含む 1-3mmの砂粒を含む	外 淡赤褐色 内 淡赤褐色	

No.	器種	法量	胎土	色調	備考
16	弥生後期 高杯皿部	復元径 17.9cm	1~2mmの砂粒を非常に多く含む	外 肌色 内 淡黄褐色	
17	弥生後期 高杯胴部	復元径 19.5cm	1~3mmの砂粒を含む	外 赤茶色 内 暗赤茶色	
18	弥生後期 口縁部		微砂粒子を含む	外 赤茶褐色 内 赤茶褐色	
19	弥生後期 口縁部	復元径 16.4cm	1~2mmの砂粒を含む	外 赤茶褐色 内 赤茶褐色	口縁部外面にスズ状の付着物あり
20	弥生後期 口縁部	復元径 25.4cm	1~2mmの砂粒を含む	外 赤褐色・黒斑 内 淡灰褐色	
21	弥生後期 口縁部	復元径 15.4cm	微砂粒子を含む	外 赤褐色・黒斑 内 淡黄褐色・淡赤褐色	
22	弥生後期 口縁部	復元径 13.0cm	微砂粒子を含む	外 黒色 内 淡茶褐色	外面にコゲ状の付着あり
23	弥生後期 口縁部	復元径 10.5cm	微砂粒子を含む	外 淡黄灰褐色 内 淡茶褐色	
24	弥生後期 底部	径 5.0cm	微砂粒子を含む	外 淡黄灰褐色 内 淡茶褐色	外面にコゲ状の付着あり
25	弥生後期 底部	径 8.2cm	微砂粒子を多く含む	外 淡茶灰色 内 茶褐色	
26	弥生後期 底部	径 8.0cm	1~2mmの砂粒を含む	外 淡茶灰色・暗黄茶色 内 赤茶褐色	木の葉底
27	弥生後期 底部	径 5.5cm	微砂粒子を多く含む	外 淡黄褐色 内 淡黄褐色	
28	弥生後期 底部	径 3.7cm	微砂粒子を少し含む	外 淡茶褐色・黒斑 内 淡茶黄色	
29	弥生後期 底部	径 4.0cm	1~2mmの砂粒を多く含む	外 褐色 内 黄褐色	
30	弥生後期 底部	径 3.1cm	1mm以下の砂粒を含む	外 褐色・黒色 内 暗茶色	
31	弥生後期 底部	径 3.1cm	2~3mmの砂粒を多く含む	外 淡赤茶色 内 黄褐色	
			微砂粒子を含む	外 暗灰褐色 内 暗こげ茶色	ニニチュア土器
			1mm程度の砂粒を少し含む		

No.	器種	法量	胎土	色調	備考
32	弥生後期 底部	径 2.0cm	微砂粒子を含む 1~2mmの砂粒を含む	外 黒色 内 黒色・黒褐色	ミニチュア土器
33	弥生後期 底部	径 2.1cm	微砂粒子を含む 1~2mmの砂粒を含む	外 淡黄灰色 内 淡黄灰色・自然釉	ミニチュア土器
34	須恵器 蓋杯	復元径 11.8cm	微砂粒子を含む 1mm以下の砂粒を少し含む	外 暗青灰色 内 暗青灰色	焼成・良好堅緻
35	須恵器 無蓋高杯皿部	復元径 15.0cm	微砂粒子を多く含む	外 灰色 内 灰色	焼成・良好堅緻
36	瓦質 甕 口縁部	復元径 22.4cm	微砂粒子を含む 1~2mmの砂粒を含む	外 暗灰色 内 暗灰色	焼成・良好堅緻
37	須恵質 コネ鉢口縁部		細砂粒を多く含む 2~4.5mm以上の大砂粒を少し含む	外 暗茶灰色 内 茶褐色	焼成・普通
38	土師質 小皿	径 6.5cm	微砂粒子を含む	外 暗茶灰色 内 茶褐色	摩耗している
39	備前焼 大甕 口縁部		細砂粒を含む 2~10mm近い大砂粒を含む	外 茶紫色 内 茶紫色	焼成・良好堅緻
40	備前焼 插鉢 口縁部	復元径 30.5cm	細砂粒を含む 2~4.5mm以上の大砂粒を含む	外 暗茶赤色 内 暗赤褐色	焼成・良好堅緻
41	備前焼 插鉢 口縁部	復元径 30.9cm	細砂粒を含む	外 赤茶色 内 赤茶色	焼成・普通

一 土師窯（土手采石跡）Ⅲ 出土遺物

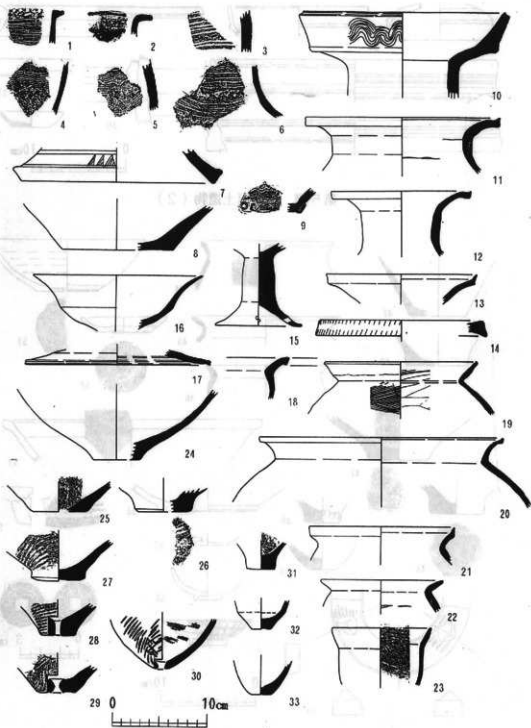
No.	器種	法量	胎土	色調	備考
42	弥生中期 甕 底部	復元径 6.0cm	細砂粒を含む	外 赤褐色・黒褐色 内 淡灰褐色	
43	弥生中期 甕 底部	復元径 6.9cm	1mm以下の砂粒を多く含む	外 コゲ茶色 内 淡黒色	
44	弥生後期 甕 口縁部	復元径 14.0cm	微砂粒子を含む 1~3mmの砂粒を含む	外 淡灰褐色 内 淡赤褐色	
45	弥生後期 甕 口縁部	復元径 18.4cm	微砂粒子を含む 1~3.4mmの大砂粒を含む	外 コゲ茶色 内 赤茶色	
46	弥生後期 甕 口縁部	復元径 12.5cm	微砂粒子を含む 1~3mmの砂粒を含む	外 黄茶褐色 内 赤黄褐色	内面にコゲ状の付着物あり

No.	器種	法量	胎土	色調	備考
47	弥生後期 底部	復元径 6, 5cm	微砂粒子を含む 1~3mmの形粒を含む	外 淡茶灰色 内 黒褐色	木の葉底
48	弥生後期 底部	径 6, 0cm	細砂粒を含む	外 淡肌色・黒斑 内 淡肌色	木の葉底
49	弥生後期 底部	径 3, 9cm	微砂粒子を含む 1~3mmの形粒を含む	外 淡灰褐色 内 淡灰褐色	
50	弥生後期 底部	径 6, 0cm	微砂粒子を含む 1~3, 4mmの大砂粒を含む	外 淡黄灰褐色 内 淡茶灰色	
51	須恵質 碗	復元径 6, 6cm	微砂粒子を含む 1~3, 4mmの大砂粒を含む	内 暗灰色 外 暗灰色	底部は糸切り 焼成・良好
52	須恵質 小皿	径 9, 0cm	1~3, 4mmの大砂粒を含む	外 淡黒灰色 内 淡黒灰色	底部はへら切り 焼成・良好
53	丹波焼 播鉢	復元径 27, 3cm	やや粗い・灰茶色	外 釉・茶色	焼成・良好 堅緻
54	施釉陶器 底部	復元径 10, 5cm	微砂粒子を含み砂質・灰色	地は外・淡濃緑色 内・淡緑灰色	内外ともにとび刺毛目(釉は 軟状胎)、胎土目・歪み大
55	施釉陶器 底部	復元径 10, 5cm	ガラツとして 灰色	外 茶色・無釉 内 釉・鮮茶色	陥入あり
56	施釉陶器 湯飲茶碗	復元底径 3, 1cm	粗い・汚れた白色	釉・透明	陥入多い
57	染付 小皿	復元径 9, 7cm	ややガラツとしているが 精良・灰白色	釉・透明 呉須・藍色 黒灰色(暈)	
58	瓦質 ゴトク		微砂粒子を多く含む		
59	瓦 軒平瓦		1mm以下の形粒を含む	淡茶色	焼成・良好 やや摩耗する
60	銅質 寛永通寶				

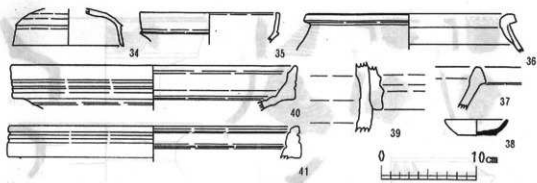
ニシキ有蓋白出十一号植物

NO.	器種	法	量	胎土	色調	備考
61	弥生前期 甕 口縁部			細砂粒を含む 1-3.4mmの大砂粒を含む	赤茶色 赤茶色 黒褐色 赤褐色 黄茶褐色 黄褐色 黄褐色 黄褐色 淡赤茶色 コゴ茶色 黄褐色 黄褐色 内 淡灰茶色 外 淡赤茶色	
62	弥生中期 甕 口縁部			微砂粒を含む	内 淡赤茶色 外 淡赤茶色	
63	弥生中期 甕 口縁部			2mm程度の砂粒を含む	内 淡赤茶色 外 淡赤茶色	
64	弥生前期 甕 口縁部			微砂粒を含む 1-3mmの砂粒を含む 細砂粒を含む	外 淡赤茶色 内 淡赤茶色 外 淡赤茶色	
65	弥生中期 甕 底部	復元径	5.1cm	1-2mmの砂粒を含む 細砂粒を含む	内 淡赤茶色 外 淡赤茶色	
66	弥生中期 高杯脚端部			1-3mmの砂粒を含む 微砂粒を含む	内 淡赤茶色 外 淡赤茶色	
67	弥生中期 壺 口縁部			微砂粒を含む	内 淡赤茶色 外 淡赤茶色	口縁端部で摩耗が著しい
68	弥生中期 甕	復元径	20.9cm	細砂粒を含む 1-2mmの砂粒を含む	外 淡赤茶色 内 淡赤茶色	
69	弥生後期 甕	復元径	15.7cm	1mm以下の砂粒を多く含む 砂粒の大きさは揃っている	外 淡赤茶色 内 淡赤茶色	外面にコダ状の付着あり
70	弥生後期 甕	復元径	13.4cm	微砂粒を含む 1-3mmの砂粒を多く含む	外 黒色(黒斑か) 内 淡黄灰褐色 外 淡黄褐色 内 淡黄褐色	
71	弥生後期 甕	復元径	12.4cm	1mm以下の砂粒を多く含む	外 淡黄褐色 内 淡黄褐色	
72	弥生後期 甕	復元径	13.8cm	微砂粒を含む 1-3mmの砂粒を多く含む	外 茶灰色 内 赤茶褐色	
73	弥生後期 小鉢	径	4.9cm	1mm以下の砂粒を含む 砂粒の大きさは揃っていない	外 淡黄灰褐色・黒斑 内 淡黄褐色	ミニチュア土製品 手づくね
74	弥生後期 甕 底部	径	3.1cm	微砂粒を含む 1-2mmの砂粒を含む	外 淡灰黄色 内 淡黄褐色	
75	弥生後期 甕 底部			微砂粒を含む 1-3mmの砂粒を多く含む	外 淡赤灰褐色 内 白灰褐色	

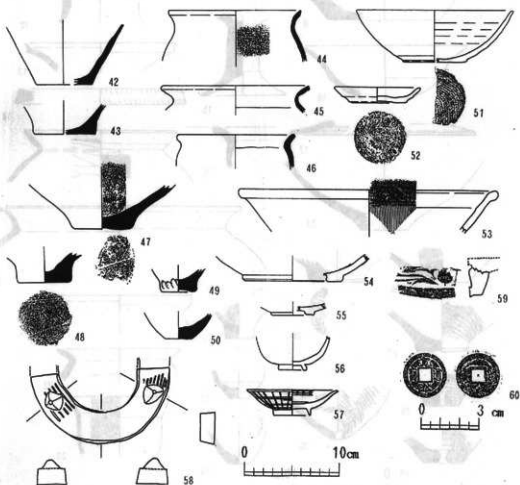
No.	器種	法量	胎土	色調	備考
76	弥生後期 底部	径 5, 4cm	1-3mmの砂粒を非常に多く含む 砂粒は不揃いで細かいものが多い 微砂粒子を少し含むが精良	外 灰茶褐色 内 灰茶褐色・黒色 袖 淡黄緑色	中国同安窯系
77	青磁 小皿	径 6, 6cm	灰白色 やや粗い・灰白色	袖・やや青みがかった 淡濃緑色	随入あり
78	青磁 碗	径 5, 4cm	精良・灰白色	袖・やや淡濃緑色	
79	青磁				
80	備前焼 大甕口縁部		1mm程度の砂粒を含む	外 暗茶褐色 内 暗茶褐色	摩耗が著しい 焼成・良好堅緻
81	土師質 口縁部		微砂粒子を含む 表面砂質	外 淡コゲ茶色 内 淡コゲ茶色	焼成・良好堅緻



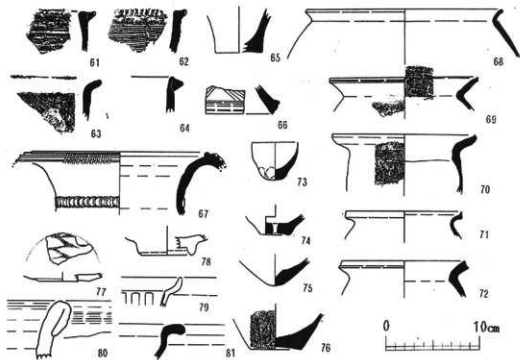
第4図 溝部出土遺物(1)



第5図 溝部出土遺物(2)



第6図 土坑(土探跡)出土遺物



第7图 遺構面出土遺物



写真1 トレンチ1 (東から)

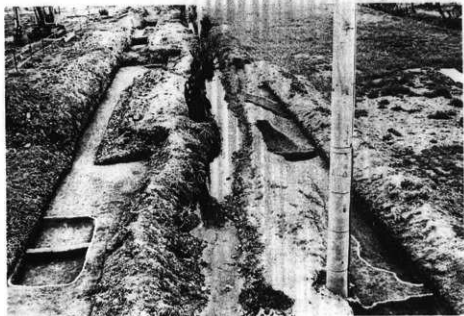


写真2 トレンチ2・3 (北から)

